

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第10週の発生動向

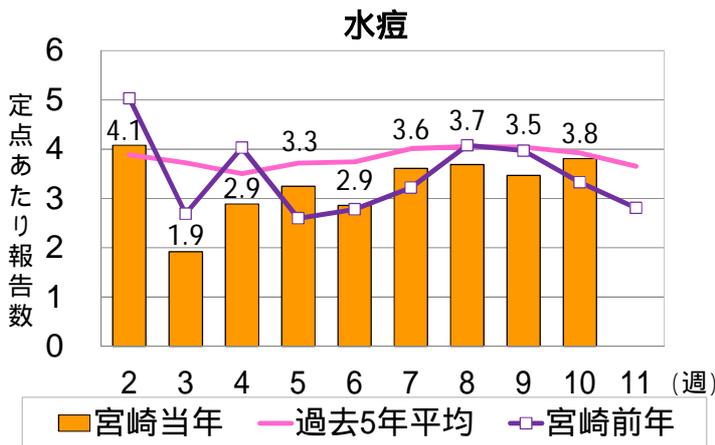
定点医療機関からの報告総数は1,862人（定点あたり44.3）で、前週比93%と減少した。

前週に比べ増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

インフルエンザ・小児科定点からの報告

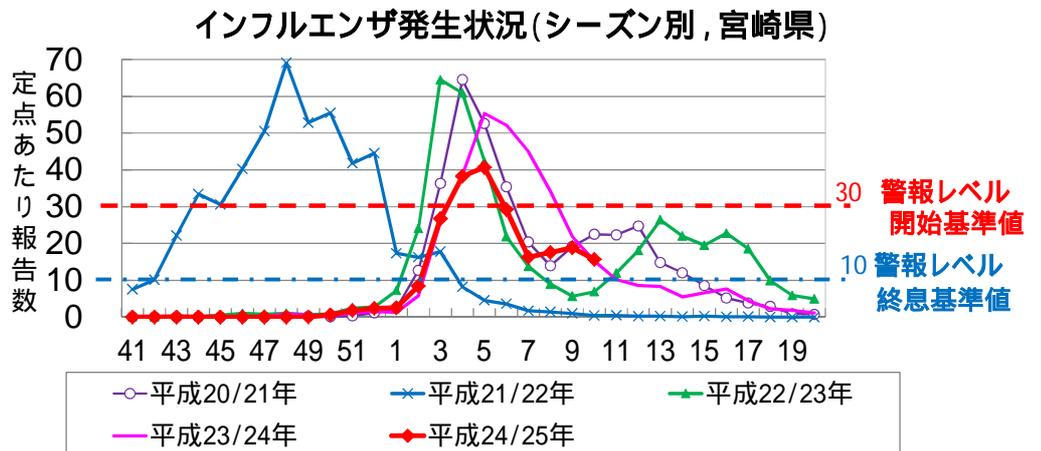
【水痘】

・報告数は137人（3.81）で前週比110%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（3.9）と同程度である。日南（11.7）保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

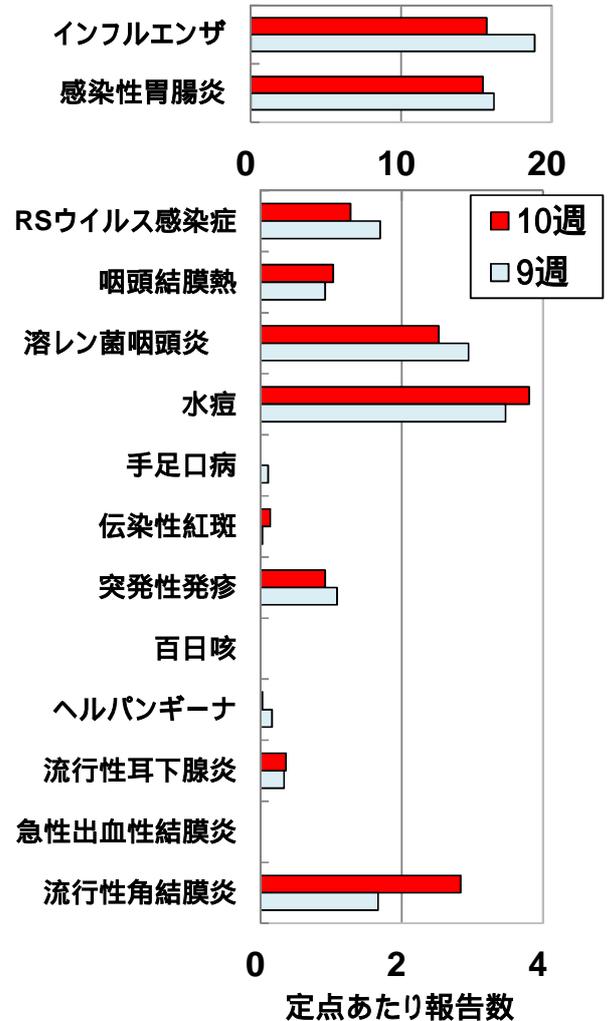


【インフルエンザ】

・報告数は925人（15.7）で前週比83%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値（12.9）の約1.2倍である。小林（27.8）、中央（20.0）保健所からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の32%、6~9歳が23%、10~14歳が20%、15~19歳が3%、20歳代から50歳代が18%、60歳以上が4%を占めた。



（前週との比較）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

基幹定点からの報告

細菌性髄膜炎：宮崎市（1人）保健所から報告された。患者は6歳で、原因病原体は不明。

マイコプラズマ肺炎：延岡（1人）保健所から報告された。患者は4歳であった。

流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	感染性胃腸炎(23.8)
日南	水痘(11.7)
小林	感染性胃腸炎(28.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値 *
 ・感染性胃腸炎(20.0)
 ・水痘(7.0)

全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 3 例。
- 3 類感染症： 報告なし。
- 4 類感染症： 報告なし。
- 5 類感染症： アメーバ赤痢 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	無症状病原体保有者	-
		延岡	80歳代	肺結核	痰
			80歳代	肺結核	咳、痰
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	50歳代	腸管アメーバ症	下痢
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	日南	50歳代	-	ショック、腎不全、DIC

病原体情報（衛生環境研究所微生物部 平成 25 年 3 月 10 日までに検出）

細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	0~4	女	2013.2.12	発熱(37.3)、下痢、血便	便	2013.2.27
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	0~4	男	2013.2.13	EHEC疑、腹痛、水様性下痢	便	2013.3.4
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	0~4	男	2013.2.16	腹痛、水様性下痢、嘔吐	便	2013.3.4
腸管出血性大腸菌(O115:H10 VT1)	70歳代	女	2013.2.15	無症状	便	2013.2.27
腸管出血性大腸菌(OUT:H21 VT2)	50歳代	男	2013.2.15	無症状	便	2013.2.27
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	20歳代	女	2013.2.15	無症状	便	2013.3.4
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	5~9	男	2013.2.18	腹痛	便	2013.3.4
腸管出血性大腸菌(O111:HUT VT1,2)	50歳代	女	2013.2.17	無症状	便	2013.3.4
Salmonella Choleraesuis(O7(O6):c:1,5)	80歳代	女	2013.2.12		血液	2013.2.25
Salmonella O4群血清型不明	10歳代	女	2013.2.12		便	2013.2.21
Bordetella pertussis (百日咳菌)	0~4	男	2013.2.27	気管支炎、RSV(+)	咽頭ぬぐい液	2013.3.10

中央保健所管内で2事例8名から腸管出血性大腸菌（EHEC）が分離された。このうち1事例は同一事例内においてO111:HUT、O115:H10、OUT:H21のEHECが分離された。EHECの検査では、しばしば同一事例内において複数の血清型のEHECが分離されることから、検査に際しては注意深い観察が必要となる。また、EHEC感染症は小児～小学校低学年で発症率が高いが、感染初期はカゼ様症状で次第に下痢、腹痛をきたし、血便になって初めて医療機関を受診する場合も多く、家庭内での感染拡大には注意が必要である。

ウイルス（サーベイランス）

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状 等	検出材料	検出日
インフルエンザAH3型	1	男	2013.1.4	A型インフルエンザ、38.5	咽頭ぬぐい液	2013.2.26
インフルエンザAH3型	1	男	2013.1.6	A型インフルエンザ、39.6、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2013.2.26
インフルエンザAH3型	9	女	2013.1.16	A型インフルエンザ、38.7、上気道炎	鼻汁	2013.2.26
エコーウイルス18型	4M	女	2013.1.24	ウイルス感染症疑い、38.0、発疹、胃腸炎	便、咽頭ぬぐい液	2013.3.7
エコーウイルス18型	4M	女	2013.1.24	ウイルス感染症疑い、39.0、発疹	便、咽頭ぬぐい液	2013.3.7

インフルエンザAH3型はPCR法で検出

インフルエンザと診断された小児3名からインフルエンザAH3型が検出された。
ウイルス感染症と診断された乳児2名からエコーウイルス18型が分離された。

ノロウイルス検出情報

検出なし。（検査依頼なし）

全国第9週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は27.9で、前週比97%と横ばいであった。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザと水痘であった。

感染性胃腸炎の報告数は30,265人（9.6）で、前週比109%と増加した。熊本県（16.8）、宮崎県（16.2）、福井県（15.3）からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約4割を占めた。

インフルエンザの報告数は60,609人（12.3）で、前週比88%と減少した。愛知県（27.2）、高知県（25.2）、広島県（24.9）からの報告が多く、年齢別では5歳以下が28%、6～9歳が23%、10～14歳が17%、15～19歳が4%、20歳代から50歳代が21%、60歳以上が7%を占めた。

全数把握対象疾患（全国第9週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	348例				
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	13例	腸チフス	2例
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	2例	オウム病	1例
	チクングニア熱	1例	デング熱	4例	類鼻疽	2例
	レジオネラ症	6例				
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	5例	急性脳炎	4例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	11例
	ジアルジア症	3例	梅毒	11例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例
	風しん	199例	麻しん	12例		

*風しん：東京都（84例）、神奈川県（28例）、千葉県（18例）からの報告が多い。

月報告対象疾患の発生動向 <2月>

性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は32人（2.5）で、前月比110%と増加した。また、昨年2月（2.3）の約1.1倍であった。

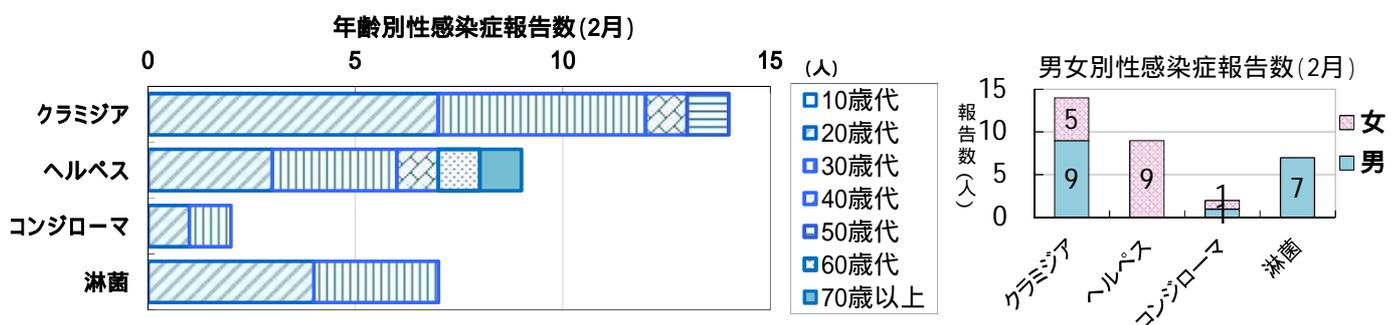
《疾患別》

性器クラミジア感染症：報告数14人（1.1）で、前月の約8割、前年の約7割であった。20歳代が全体の約半数、30歳代が約4割を占めた。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人（0.69）で、前月の約2.3倍、前年の約1.5倍であった。20歳代・30歳代がそれぞれ全体の約3割を占めた。

尖圭コンジローマ：報告数2人（0.15）で、前月及び前年の約2倍であった。20歳代と30歳代であった。

淋菌感染症：報告数7人（0.54）で、前月の約1.2倍、前年の約1.8倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：965

定点医療機関からの報告総数は3,676人（3.8）で、前月比93%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,848人（1.9）で前月比92%、性器ヘルペスウイルス感染症673人（0.70）で前月比97%、尖圭コンジローマ428人（0.44）で前月比90%、淋菌感染症727人（0.75）で前月比94%であった。

薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は51人（7.3）で前月比100%であった。また、昨年2月（3.0）の約2.4倍であった。

《疾患別》

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数49人（7.0）で、前月と同程度、前年の約2.7倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数2人（0.29）で、前月の2倍、前年の約7割であった。70歳以上の報告であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：465

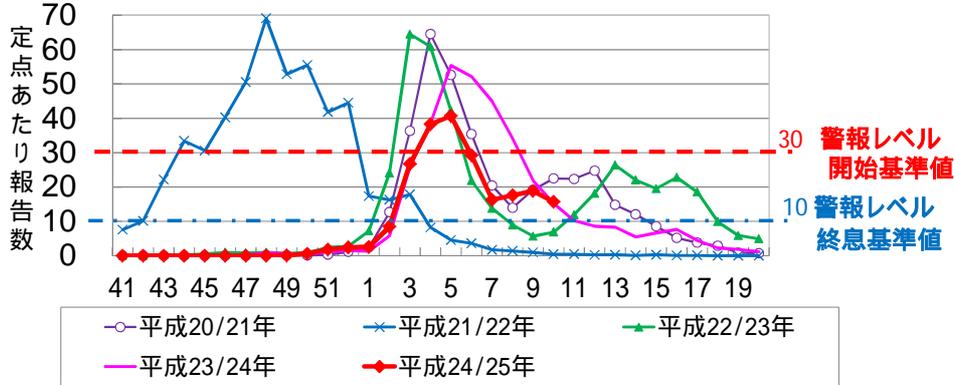
定点医療機関からの報告総数は1,803人（3.9）で、前月比86%と減少した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,566人（3.4）で前月比87%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症214人（0.46）で前月比82%、薬剤耐性緑膿菌感染症23人（0.05）で前月比100%、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はなかった。

インフルエンザ情報《県内第10週、全国第9週（再掲）》

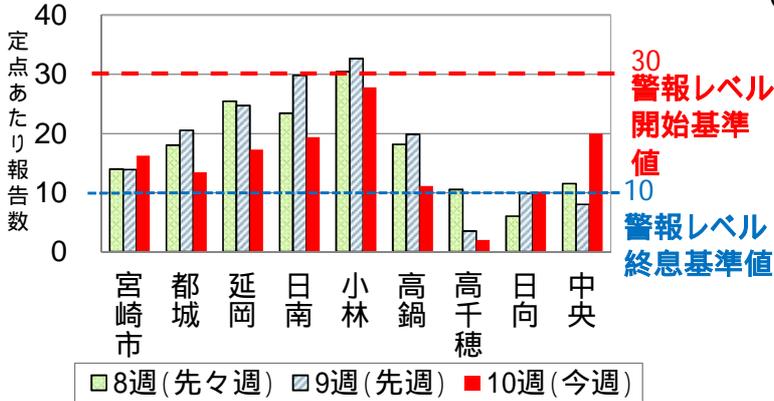
県内10週インフルエンザ発生動向

平成25年3月4日～3月10日までの1週間で925人（定点あたり15.7）の報告があり、前週の約8割に減少した（図1）。例年同時期の定点あたり平均値（12.9）の約1.2倍である。保健所別報告数を（図2）、年齢群別患者発生割合を（図3）に示す。

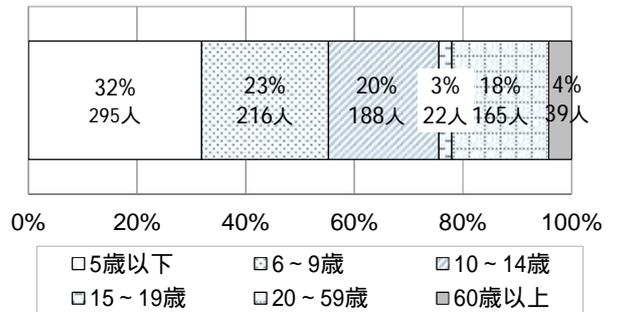
（図1）インフルエンザ発生状況（シーズン別、宮崎県）



（図2）インフルエンザ 保健所別報告数



（図3）インフルエンザ 年齢群別患者発生割合



インフルエンザ 警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○：警報レベル、△：注意報レベル、-：警報・注意報レベルなし

保健所	今週（10週）		1週前（9週）		2週前（8週）		3週前（7週）		4週前（6週）		5週前（5週）	
	定点	状況										
宮崎県全体	15.7		18.9		17.6		16.3		29.3		40.7	
宮崎市	16.3		13.9		13.9		13.4		22.6		39.5	
都城	13.5		20.5		18.0		23.8		40.6		47.7	
延岡	17.3		24.7		25.4		21.0		38.1		46.7	
日南	19.4		29.8		23.4		19.6		26.6		30.0	
小林	27.8		32.6		30.4		28.6		42.4		48.0	
高鍋	11.2		19.8		18.2		10.3		27.2		44.7	
高千穂	2.0	-	3.5	-	10.5		1.5	-	3.5	-	7.0	-
日向	10.2		9.8	-	6.0	-	7.2	-	24.0		41.7	
中央	20.0		8.0	-	11.5		7.0	-	16.5		20.5	

宮崎県全体：警報レベル終息基準値（10）を下回るまで警報レベル継続

保健所別：当該週の定点あたり報告数のみにより注意報・警報レベルを表示

全国第9週インフルエンザ発生動向

平成25年2月25日～3月3日までの1週間で60,609人（12.3）の報告があり、前週比88%と減少した。愛知県（27.2）、高知県（25.2）、広島県（24.9）からの報告が多く、年齢別では5歳以下が28%、6～9歳が23%、10～14歳が17%、15～19歳が4%、20歳代から50歳代が21%、60歳以上が7%を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2013年 第10週(03月04日～03月10日)

疾病名		第9週	第10週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1113	925	261	135	121	97	139	67	4	61	40
	定点あたり	18.86	15.68	16.31	13.50	17.29	19.40	27.80	11.17	2.00	10.17	20.00
RSウイルス 感染症	報告数	61	46	4	1	12	10				19	
	定点あたり	1.69	1.28	0.40	0.17	3.00	3.33	0.00	0.00	0.00	4.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	33	37	6	9	7	4	1	1		9	
	定点あたり	0.92	1.03	0.60	1.50	1.75	1.33	0.33	0.25	0.00	2.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	106	91	10	15	22	10	2	9	1	21	1
	定点あたり	2.94	2.53	1.00	2.50	5.50	3.33	0.67	2.25	1.00	5.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	582	555	113	72	95	57	85	57	7	53	16
	定点あたり	16.17	15.42	11.30	12.00	23.75	19.00	28.33	14.25	7.00	13.25	16.00
水痘	報告数	125	137	35	25	16	35	12	12		2	
	定点あたり	3.47	3.81	3.50	4.17	4.00	11.67	4.00	3.00	0.00	0.50	0.00
手足口病	報告数	4										
	定点あたり	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	5	3	1				1			
	定点あたり	0.03	0.14	0.30	0.17	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	39	33	12	6	3	1	3	5	1	2	
	定点あたり	1.08	0.92	1.20	1.00	0.75	0.33	1.00	1.25	1.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	6	1		1							
	定点あたり	0.17	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	12	13	2	5				5		1	
	定点あたり	0.33	0.36	0.20	0.83	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	10	17	17								
	定点あたり	1.67	2.83	5.67	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	1			1						
	定点あたり	0.14	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～10週)

2類感染症	結核	47例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8例			
4類感染症	E型肝炎	1例	つつが虫病	4例	
	アメーバ赤痢	5例(1)	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎 3例
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例(1)	後天性免疫不全症候群	1例	梅毒 2例
	破傷風	1例	風しん	3例	

()内は今週届出分、再掲